とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

園名	光明第七こども園
活動日時	2026.4.1
クラス（年齢）	幼児クラス（3，4，5歳児）
年間テーマ	自然

1．活動テーマ

≪テーマ≫

６０周年記念植樹

≪テーマの設定理由≫

本園では、とうきょうすくわくプログラムにおいて「自然」をテーマに、身近な自然に触れ、発見や気づきを深める活動に取り組んでいる。
日頃から自然に親しむ中で、子どもたちが自分たちの園や自然環境に目を向け、これからの園について考える姿が見られるようになった。そうした子どもたちの思いをきっかけに、園の60周年という節目に、これからも自然を大切にしていく気持ちを込めて木を植えることになった。
植樹を通して、植物の命や成長に関心を持ち、自分たちの成長と重ねながら、自然を未来へつないでいくことの大切さを感じてほしいと考えた。

2．活動スケジュール

入園式後

3．探求活動の実践

≪活動の内容≫（活動のために準備した素材や道具、環境の設定）

スコップ、制服、タブレット、ジョウロ

≪活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り≫

園の60周年を迎えるにあたり、子どもたちから記念の木を植えたいという提案があった。

「これからも園に木があったらいいね」「大きくなる木を植えたいね」など、これからの園や自然への思いが広がり、記念植樹を行うことになった。

植樹では、木が土に植えられていく様子を見ながら、これからどのように成長していくのか、期待を膨らませた。木を植えることは、その日だけの活動ではなく、これから長い年月をかけて成長していく命を見守ることでもある。

60周年という節目に、子どもたちの思いから始まった植樹は、園の未来と自然をつなぐ活動となった。







4．振り返り

≪振り返りにより得た保育者の気づき≫

今回の植樹は、大人が計画した記念行事として行うのではなく、子どもたちの思いを出発点として実現したことに大きな意味がある。
自然に関わる中で生まれた子どもたちの気づきや「こうしたい」という思いを受け止め、実現に向けて一緒に考えることで、子ども主体の活動へとつながった。
また、木を植えることは、自然に触れるだけでなく、命を育み、時間をかけて成長を見守る経験でもある。植樹した木が、これからの園の歴史とともに育っていく姿を子どもたちと見守りながら、自然の変化や不思議さに気づく機会を大切にしていきたい。
植樹した木を継続して観察し、葉や枝の変化、季節ごとの姿などに目を向けていく。また、水やりなどの世話を通して、植物が成長するために必要なことを考え、命を大切にする気持ちを育んでいきたい。
子どもたちの「やってみたい」「こうしたい」という思いを今後も大切にし、身近な自然との関わりから生まれる発見や疑問を、さらなる探究活動へとつなげていく。
60周年を記念して植えた木が、子どもたちとともに成長し、これから先の園の未来を見守る存在となることを願っている。